

地域づくり事例集

新発田市で行われている地域づくり活動。6つの取組テーマから、実際の活動事例をご紹介します。

- 「地域の交流の場」
- 「地域の助け合い」
- 「伝統行事の維持・復活」
- 「外部人材の受入」
- 「広報・周知活動」
- 「他団体との協働」





赤谷
地区

地域のお茶の間「趣味の会」

『好きなことを持ち寄って楽しむ みんなの憩いの場』

「今度は何つくろうかねえ」とお母さん達が盛り上がっている赤谷地区の「趣味の会」。平成29年にスタートした、毎週月曜日に集まって、みんなでお茶を飲みながら編み物や縫い物をしたり、小物を作ったりする“地域のお茶の間”です。きっかけは、「赤谷どんつき祭りに出店する商品を、みんなで作りませんか?」という地域おこし協力隊の川邊直子さんの一言でした。

「趣味の会」では、ものづくりが好きな人たちが、“やりたいこと”“できること”を持ち寄って、楽しみながら活動しています。特に人気なのは“ミニ猫ちぐら”。これを作りたくて、赤谷地区外からも「趣味の会」に参加する方がいらっしゃるほどです。

このような憩いの場ができたことで、「今まであまり話したことの無い人と友だちになれた」という参加者の声が聞かれるそうです。今では、赤谷にとどまらず、緑町でも「趣味の会」が立ち上がり、活動の輪が広がっています。



地域おこし協力隊
川邊直子さん

あんまり頑張り過ぎずに、みんなが楽しみながら継続していけると良いなと思っています。ご興味がありましたら是非お問い合わせください。

活用した補助金や制度

地域おこし協力隊

社会福祉協議会 ふれあい・いきいきサロン



▲ 趣味の会で作った作品



▲ 緑町でも趣味の会を開催

趣味の会

住所 新発田市上赤谷

地域の茶の間の取組を始めたい方は、地域づくり支援センターまでご相談ください。

電話 0254-28-7164 (新発田市地域づくり支援センター)

中々山
地区

安心・安全な地域づくり

『お互いに安心!有償化による雪下ろしの新しい形。』

一人暮らしのお年寄りが増える中、冬場の雪下ろしを誰が行うかは地域の大きな問題でした。中々山地区では、集落内の有志が集まり、雪下ろしを請け負う団体「中々山すこつぶ隊」を平成25年に立ち上げました。メンバーは60代を中心に14名です。

依頼に基づいて隊長が各家の積雪状況を確認、優先度によって作業日程を決めて隊員を招集します。作業費は一人当たり1時間1,500円。平均1軒当たり4人で1時間の作業で総料金6,000円と、一般業者に比べ格安です。さらに、各隊員は各家の屋根の形を熟知しているため、動きが無駄がなく効率的。玄関からの通路も確保してくれるので安心して依頼できます。

今年、お揃いのジャンパーを整備し、保険にも加入しました。実績を積み重ねてきたことで、最近は雪下ろし以外にも頼まれごとで声が掛かるようになりました。雪下ろしをきっかけに地域の繋がりを強くする、そんな団体を目指しています。



代表
富樫昭一さん

『集落の方々から感謝されるのが何より嬉しいです』

活用した補助金や制度

地域おこし協力隊

平成30年度赤い羽根募金の助成



▲ すこつぶ隊の有志達!



▲ 雪下ろし経験がなかったという地域おこし協力隊の尾崎敬太さんもTシャツ姿で大活躍!

中々山すこつぶ隊

住所 新発田市中々山

地域で生活支援・相互扶助の取組を始めたい方は、地域づくり支援センターまでご相談ください。

電話 0254-28-7164 (新発田市地域づくり支援センター)



新潟日報 平成30年9月7日付 新潟日报社提供

金塚地区

夏まつりにぎわい復活事業

『手作りの屋台でにぎわいを復活』

上金塚、下金塚、岡島集落は約150世帯の地区です。毎年4月と8月に地元八幡神社で行われるお祭りには、かつてはたくさんの屋台が集まり大変なにぎわいでしたが、近年は夜店の出店が無くなり、地元の若手団体が小規模ながら屋台の運営を続けていたものの年々寂しいものになっていました。

そこで地域の子どもたちに祭りの楽しみを残そうと、上金塚、下金塚、岡島、各集落の自治会、子供会、農家組合等の団体が協力して屋台の出店を企画しました。輪投げ、射的、ヨーヨー釣りといった昔ながらのゲームと、地元業者の協力を得て焼きそば、かき氷等の屋台を出店しました。用具は借りれるものは借りて手作りのお祭りを目指しました。

結果は予想以上の大盛況。集落に住む十数名の子どもたちに加え、集落外からも子どもたちが50名以上集まり、久しぶりににぎやかな夏まつりとなりました。来年以降も、子どもたちの思い出に残るイベントになるよう企画を検討しています。



実行委員
高橋孝夫さん

ゲーム用具や調理機器等、無料で貸していただける団体があればご連絡ください。運営側に参画していただける高校生を募集しています。

活用した補助金や制度

平成30年度地域活性化助成金
(新発田市地域づくり支援センター)



▲ 白熱した3集落の合同検討会



▲ 久しぶりに子どもたちで賑わっている神社の境内

金塚地区 夏まつり実行委員会

住所 新発田市岡島520番地
電話 0254-33-2501



外部人材の受入 (交流人口の拡大)

交流人口とは、その地域に住んではいませんが、外から訪れ、交流する人のことです。外の人とのつながりで、地域の活力を取り戻そうとする動きが広がっています。



地域外部との交流

活用した補助金や制度
地域おこし協力隊

『自分たちが楽しむことで人が集まる』

「夢づくりいたやま」は、平成16年設立の地域づくり団体。春の夢まつり、盆踊り、稲刈りイベント、ほやほや(さいの神)と一年を通じてイベントを開催し、多くの地域外の人を受け入れているほか、新潟大学の学生や専門学校生の学びの場の提供や地域おこし協力隊の受入など、外部人材の活用にも積極的に取り組んできました。

元々はヒメサユリの自生地復元を目指して活動を始め、女性や子ども、お年寄りも加わり、老若男女、全世代が参画する活動に広がりました。

外部の人との交流というと実施する側の負担が懸念されますが、「夢づくりいたやま」では「まずは自分たちが楽しむこと、できることに参加し、決して無理をしないこと」がメンバーに定着しており、その意識が外部人材の受入を可能にしています。代表の井伊さんは「できるだけ関わるスタッフを多くすること。誰かにまかせっきりにしない環境づくりを行うことが重要」と長続きするポイントを話してくれました。



▲ イベントに参加する学生を前に段取り説明



▲ 「春の夢まつり」実行委員会 全世代が協力してのアイデア出し



代表 井伊博人さん 事務局 井伊康則さん 委員 石山和史さん 地域おこし協力隊 佃健太郎さん

とても元気な集落です。皆で楽しむイベントを開催しておりますので、お気軽にご参加ください。

夢づくりいたやま
住所 新発田市板山2275
電話 0254-25-2923



豊町地区

地域に密着した町内会だよりの発行

『住民の1人1人が主人公』

町内会だより「ゆたか」は今号で82号。年間3回の発行で、平成8年から今年で22年になる歴史ある会報誌です。

豊町3・4丁目は、昭和50年代初めから開発が始まった新興住宅地で、地域の絆を深めようと、運動会、文化祭、夏まつりパレード、盆踊り、どんど焼きなど、住民のみんなが参加できる地域行事を積極的に開催してきました。これらの行事を通じて、青年会、老人クラブ、子ども会、町内会がしっかりと組織され、それと同時に地域活動のコミュニケーション媒体として町内会だより「ゆたか」が大きな役割を担ってきました。

紙面の登場人物は子どもからお年寄りまで1回に20人前後。この登場人物の多さが、皆をひきつける魅力です。「〇〇ちゃん。写真載ってた!」「おめさん「ゆたか」に出てたね。」その一言が、会話のきっかけになって、地域のコミュニケーションが深まります。「これからも末永く愛される会報誌を目指していきたいです」と町内会長の本間さんが話してくれました。

町内会長
本間紀夫さん編集委員
佐藤準二さん

子どもたちが喜ぶ姿が一番大事。
「ゆたか」がいきいきとしているのは地域が元気な証拠です。

▲運動会でのパン食い競争
毎年大勢の住民が参加する一大イベント

▲各組織の代表者が集まって和気あいの編集会議

豊町3・4丁目町内会

住所 新発田市豊町3・4丁目

地域の広報・周知活動についてお悩みがある方は、地域づくり支援センターまでご相談ください。

電話 0254-28-7164 (新発田市地域づくり支援センター)

単独では難しいことも、他団体と協働すれば実現できることがあります。それぞれの特性や、異なる視点を持ち寄ること、新たな活動が生まれます。



五十公野地区 地域×NPO
障がい児者と地域住民の交流事業

活用した補助金や制度 平成30年度地域活性化助成金 (新発田市地域づくり支援センター)

二葉地区 学校×地域
地域と協働した教育活動

活用した補助金や制度 平成30年度地域活性化助成金 (新発田市地域づくり支援センター)

『つながりの場づくりで、障がいに対する理解を広げる』

新発田市手をつなぐ育成会は昭和33年設立の、障がい児者とその家族が地域で安心して暮らせるよう支援する団体です。

五十公野にある障がい児者の生活介護や地域活動支援、放課後等デイサービスを行う「かどるあつぷ」では、交流スペースを地域に開放しています。

「障がい者に対して、馴染みのない方も少なくありません。一緒に過ごすことで、身近に感じてもらえたら」と、定期的に手芸教室などのイベントを開催。地域の方を講師に迎え、住民と障がい児者、会員と一緒に活動をしています。講師の方や参加者の中には、障がい児者とふれあうのは初めての方もいますが、同じ活動を通じて個性を理解しあい、楽しんで過ごしています。

障がいの有無にかかわらず、趣味やイベント等を通じて地域みんながつながる場づくりに取り組んでいます。

特定非営利活動法人
新発田市手をつなぐ育成会
多機能型事業所かどるあつぷ

住所 新発田市五十公野5160-12
電話 0254-28-7820 FAX 0254-28-7826
メール cuddle.up@gol.com



理事
佐藤玲子さん



事務局
時津聖子さん

交流スペースはどなたでもお使いいただけます。ご利用希望の方はお気軽にお問い合わせください。

『地域みんなで学校を防災のプラットフォームに』

二葉小学校は「『いのち』を大切にし、守る」教育活動を掲げ、地域とつながる学校づくりに取り組んでいます。学校を支えるのが、15の「町内会」をはじめ、「おやじの会」「二葉サークル」「民生児童委員」など11の団体が参画し、平成27年に立ち上がった『二葉ネット』です。

地域に学ぶ教育活動の柱となるのが「防災」。昭和40年代にこの地域で起こった2度の水害と、集団移転の経験を子どもたちに伝えようと、「合同避難訓練」や「防災キャンプ」を実施、住民による水害の体験談や、「二葉サークル」による炊き出し支援や、町内会による危険箇所・避難場所の指導など、地域団体が積極的に協力しています。

この二葉ネットの活動を機に、各町内会の自主防災組織率も100%を達成し、地域コミュニティ全体の活性化につながっています。二葉ネットの協働事業は平成29年に文科大臣表彰を受けており、全国的に注目されています。

二葉小学校
地域連携ネットワーク会議
(通称:二葉ネット)

住所 新発田市中田町3-6-1
電話 0254-22-2164 FAX 0254-22-6690



二葉小学校・校長
長谷川恵さん



二葉地区町内会会長・会長
緑町2丁目・町内会長
藤田三男さん

大きな活動・組織ですが、それぞれが「無理をしない」「できる人ができる活動を行うこと」を大切にせず、末永く続くことを願っています。

こんな困りごとはありませんか？

- 自治会の行事がなくなりそう
- 新しい企画をやりたいけど予算がない
- NPOの会計が難しく大変…
- 講師を依頼したいけど、あてがない…
- 人が減って元気がなくなってきた
- 地域と上手く連携するには誰に相談したらいい？

その悩み、ご相談ください。

私たち地域づくり支援センターは、自治会・ボランティア団体・NPO・学校・企業など、地域づくりに関する困りごとを一緒に考える、総合相談窓口です。

皆さんの「困った」を一緒に考え、垣根を超えて、色々な団体・個人・制度をご紹介します。まずは、なんでもお気軽にご相談ください！

地域づくり支援センター 4つの機能

活動に困ったら。まずはご相談下さい。

相談窓口

自治会、NPO、ボランティア団体、学校、企業など、多くの人とのネットワークを使い、他団体との連携や、人材紹介など、専門のコーディネーターが皆さんの悩みを一緒に解決します。

資金が足りない…を応援します。

資金調達支援

皆様の活動状況を伺ったうえで、色々な面から資金調達の方法を検討します。また、様々な助成金の中から適する助成金を選んだり、申請書作成の支援もいたします。

活動やイベントを知ってもらいたい！

広報PR

団体情報やイベント情報、地域の魅力発信など、会報誌やインターネット等を使って紹介します。皆さんの情報をお寄せください。

役立つノウハウ・スキルを学びませんか？

各種講座の開催

情報発信、チラシづくり、会計のスキルなど、地域づくりに関する講座を開催します。また、開催する講座のリクエストも募集しています。

サテライト(ボランティアセンター内)

開館時間 AM9:00~PM4:00
休館日 土日祝日、年末年始
駐車場 有(ボランティアセンター駐車場)
所在地 〒957-0054 新発田市本町4-16-83
電話 0254-28-7164 FAX 0254-28-7182
メール chiikizukuri_ss@ybb.ne.jp

本部(新発田市役所内)

開館時間 AM8:30~PM5:15
休館日 土日祝日、年末年始
駐車場 有(新発田市役所駐車場)
所在地 〒957-8686 新発田市中央3-3-3
新発田市役所6階市民まちづくり支援課
電話 0254-28-9640 FAX 0254-28-9670
メール machizukuri@city.shibata.lg.jp

